

ご存知ですか？ 愛知県支部の南海トラフ地震への備え

30年以内に70%程度の確率で起こると予測されている南海トラフ地震。最大でマグニチュード9にも及ぶ大規模な地震が、この地域を脅かそうとしています。今回は、大規模災害に備えた日本赤十字社愛知県支部の取り組みを紹介します。

救援物資の備蓄と救援資材の配備



■ 愛知県支部における大規模災害への備え

県内14か所の拠点倉庫で
救援物資を備蓄 ※平成29年4月1日現在

救 援 物 資

毛 布

緊急セット

歯ブラシ、タオル、
携帯ラジオ等
日用品セット

タオルケット

安眠セット

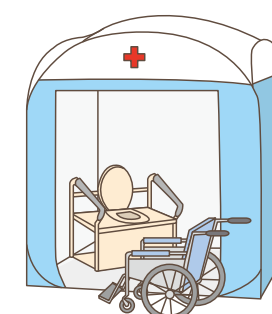
ウレタン製のマットや
アイマスクなど、避難
所で快適に過ごせる
ためのセット



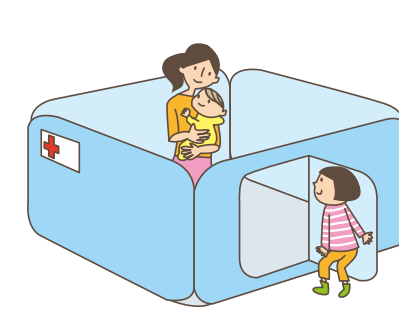
■ 地域ごとに救護資材を配備

日本赤十字社愛知県支部では、救援物資の他に過去の災害救護活動の経験から実用性に優れた救護資材を各市町村からの要望に基づき、3ヶ年計画で各地町村に配備しています。

- 要援護者対応災害用簡易トイレ
- バルーン投光器
- ワンタッチパーテーション
- 携帯トイレセット など



車椅子対応型簡易トイレ



ワンタッチパーテーション



担架

バルーン
投光器

災害から身を守る力を子どもたちに



日本赤十字社は、2011年の東日本大震災をきっかけに「まもるいのち ひろめるぼうさい」という防災教育プログラムを、全国の小学校、中学校、高等学校を中心に展開しています。また愛知県支部が、防災教育を目的として企業と共同制作した「いえまですごろく」も、多くの学校で活用されています。災害に遭遇したときに、自分の命を守るにはどうしたらいいのか。そして、周りのみんなと助け合いながら生き抜いていくにはどうすればいいのか。自ら考え、正しく行動できる防災意識をはぐくんでいます。



外国人住民にも防災・減災の知識や技術を



愛知県は、外国人住民数が約22万人と多くの外国人住民が暮らしています。外国人住民は、災害時において、言語や文化の違いなどから困難を抱えるケースが多くあります。日本赤十字社愛知県支部では、外国人住民が赤十字事業への参画を通して地域における支援者として活躍できるよう、外国人住民を対象に防災にかかる知識や技術を身につけるための講習普及や外国人ボランティアの養成に取り組んでいます。

災害時に各地域で活躍するボランティアを目指して

災害が起きたとき、赤十字ボランティアが各地域での活動を円滑に実践できるよう、愛知県支部では防災ボランティアの養成に取り組み、必要な技術や知識を身につけるための研修会を開催しています。



関係機関と連携した救護訓練

愛知県支部では大規模災害に備え、行政や各医療機関等と連携した救護訓練を実施しています。



赤十字の活動資金にご協力お願いします。

赤十字事業は、みなさまからの活動資金のご協力によって、支えられています。みなさまのご協力をお願いいたします。

